

**2年-20 題材名 「職業とは何か」**

**1 目標**

- ア 職業の意味について考えさせ、職業と産業の違いについて理解させる。
- イ 職業分類と産業分類について理解させ、生徒の職業認識を広めさせる。
- ウ 身近な地域の職業や産業に目を向けさせ、職業や産業への関心を高めさせる。

**2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力**

- ア **思考能力**：職業と産業の違いについて考える。
- イ **情報選択能力**：職業の分類、産業の分類を理解し、職業認識を広める。

**3 指導上の工夫（留意点）**

- ア 日本標準職業分類と日本標準産業分類を基に、職業と産業の違いを理解させる。
- イ 班毎に、**身近な地域の職業と産業の洗い出しと分類**の作業をさせる。

**4 展開**

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	<p>1 知っている職業の名前を発表し合い、職業について考えていくことを確認する。</p> <p>職業とは何かを考えようー産業との対比をとおしてー</p>
展開 40分	<p>2 付箋紙に書かれた「職業名」について先生が職業と産業に分けた結果を見て、職業と産業の違いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班毎に話し合う</li> </ul> <p>3 先生からの説明で、職業と産業の違い、両者の関係を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業…個人が行う仕事の内容</li> <li>・産業…事業所が行う仕事の内容</li> <li>・両者の関係</li> </ul> <p>4 地域にはどんな職業や産業があるかを、班毎に話し合ってワークシートに書き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の産業</li> <li>・地域の職業</li> </ul> <p>5 職業の大分類と具体的職業の例、産業の大分類と具体的産業の例の資料を基に、4番で書き出した職業や産業の分類を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班内で協力して作業する</li> <li>・他の班とも情報交換する</li> </ul>
終末 5分	<p>6 自分の希望する職業について、どの産業に属するかを調べ、ワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の希望する職業が属する産業名</li> <li>・自分の希望する職業が属する産業は第何次産業か</li> </ul> <p>7 学習の感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業と産業の違いが分かった</li> </ul>

**主な指導と援助**

自由に発表させる。職業と産業を混同していても構わない。  
 ・クイズ的にテンポ良く進め、たくさん出させる。  
 ・カード（大きめの付箋紙）に書いて、黒板に張り出す。  
 発表された「職業名」は、職業名と産業名が混ざっていることを話し、本時の活動テーマを確認させる。

適切・明快な表現を求めない。自分たちで話し合う中で、イメージ化を図らせる。

**思考能力** に関する工夫  
 →**職業と産業の違い**

職業と産業の違いについては、「中学生活と進路」p.34の欄外を参照させる。

職業と産業の関係については、「中学生活と進路」p.35の欄外から、次の三点を指摘させる。  
 ・すべての職業は、何かの産業に属している  
 ・一つの産業には、多くの職業が属している  
 ・同じ職業名が、いくつかの産業に属している

学校から見える風景や地域の様子を思い浮かべさせて話し合わせる。  
 地域の状況によっては、「中学生活と進路」の絵を活用する。

日本標準職業分類と日本標準産業分類を利用して分類させる。産業分類については、第一次、第二次、第三次の分類の仕方についても説明する（次時の指導にも生かす）。  
 二つの分類表にない職業や産業については、4番の班の予想が妥当かどうか、教師から判定をしてもらうよう、うながす。

**情報選択能力** に関する工夫  
 →**地域の職業と産業の分類**

事後にワークシートを回収し、分類が正しく行われているか確認する。

**思考能力** に関する工夫  
 →**自分の希望する職業の産業別分類**

**5 事後指導**

- ・ワークシートを回収し、展開の4番で各班が挙げた職業と産業を紹介する。
- ・次時の指導に生かす。

**2年-21 題材名 「職業の内容の調査1」**

**1 目標**

- ア 多様な職業の中から身近な職業を取り上げ、職業の世界について理解させ、自分の希望する職業の実現に生かす基礎を築かせる。
- イ 社会の変化に伴って職業や産業も変化し、求められる人材にも変化が生じていることを理解させる。
- ウ 職業を、何を相手にする職業かという点からつかませ、それぞれの職業が求める適性について理解させる。

**2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力**

- ア **思考能力**：何を相手にしたり扱ったりしているかの観点から当てはまる職業を考える。
- イ **問題解決能力**：職業の適性を展望し、自分の希望する職業について吟味・検討する。
- ウ **情報選択能力**：様々な職業の内容・特色、各職業に必要な適性を理解し、希望する職業の情報を収集する。

**3 指導上の工夫（留意点）**

- ア 職業と産業の分類を理解させ、職業の内容と特色を調べさせる。
- イ **産業別人口割合の変化のグラフ**から、産業構造が変化してきたことをつかませる。

**4 展開**

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 産業別人口割合の変化のグラフから、変化を読み取り、本時の活動テーマを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">職業や産業の変化により、どんな人材が求められるようになってきているか考えよう</div>
5分	
展開	2 産業別人口割合が、グラフのように変化してきた理由について考える。 3 第一次、第二次、第三次人口は、主に何を相手にしたりあつかったりする職業かを、次のa～d中から選ぶ。 a－人 b－もの c－自然・生物 d－情報・価値 4 3番のa～dに属する職業の例をあげる。 a－教師、医師、看護師、美容師 等 b－自動車整備工、印刷工、大工 等 c－農耕作業者、動物飼育係、漁業作業員 等 d－銀行員、電話交換手、作家、会計士 等 5 4番のa～dの職業にはどんな人が向いているか、向いていないかについて、班で話し合い発表する。 a－向き／不向き                      b－向き／不向き c－向き／不向き                      d－向き／不向き
40分	
開	
終末	6 自分の希望する職業が、自分に向いているかどうか、5番の発表を基に振り返る。 7 先生からの講評を聞く。 ・将来の夢の実現に当たっては、社会の変化にも注目する必要がある
5分	

主な指導と援助

- 一次産業人口割合が減少し三次産業人口割合が増加していること、時代の変化と共に産業別人口も変化してきたことを読み取らせる。そして、産業界ではどんな人材が求められるようになってきたかを考えることを、本時の活動テーマとして確認させる。
- 時代の変化に目を向けさせ、考える視点をもたせる。深入りはしない。（社会科の学習との関連を考慮する。）
- 各産業における仕事の相手やあつかうものには多面性があり、はっきりと分類できないものがあるが、できるだけa～dの観点に沿って産業を考えるようにさせる。  
目安として、aは第3次産業、bは第2次産業、cは第1次産業、dは第3次産業としておさえさせる。
- 自由に発表させる。  
意見が出にくい時は、班で話し合わせて発表させる。  
「中学生活と進路」p.39で確認させても良い。
- 思考能力** に関する工夫  
→何を相手にするかで当てはまる職業を考える
- 適性を考える観点として、①行動・性格、②学習、③身体・運動、④興味・特技、⑤仕事への興味・関心等を与え、これらを基に、具体的に考えさせる。
- 情報選択能力** に関する工夫  
→さまざまな職業の適性を考える
- 問題解決能力** に関する工夫  
→自分の希望する職業と適性
- これからどんな職業が発展していくのかを考えさせてみることも有効と思われる。  
悩みや不安が生じた場合は個別に相談することを促す。

**5 事後指導**

- ・自分の希望する職業（将来の夢）に悩みや不安が生じた生徒には、個別に教育相談を行う。

**2年-22 題材名 「職業の内容の調査2」**

**1 目標**

- ア 多様な職業の中から身近な職業を取り上げ、職業の世界について理解させ、自分の希望する職業の実現に生かす基礎を築かせる。
- イ 職業の特色を、どんな方法で就職するか、就職後の生活の場はどこかという観点でとらえ、職業観・勤労観を広げさせる。

**2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力**

- ア **思考能力**：進路希望を実現するために、今の自分に何が必要かを考える。
- イ **意志決定能力**：職場体験学習の際に、自分の適性や希望と照らし合わせて職業を選ぶ。
- ウ **情報選択能力**：様々な職業の内容・特色、各職業に必要な適性を理解し、希望する職業の情報を収集する。

**3 指導上の工夫（留意点）**

- ア 希望する職業の特色を整理させ、今の自分に何が必要かを考えさせる。
- イ **職場体験学習の事前学習**として位置付け、どの職場に行くかの判断の材料とさせる。

**4 展開**

時間	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	<p>1 職業の特色について知っておきたいこととして、適性以外に何があるかを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>職業に就くための方法や、職業によって生活の場がどうなるかを考えよう</p> </div>
展開 30分	<p>2 職業に就くに当たって必要な条件や方法を考え、次のa～dに分類し、それぞれの具体的な職業の例を出し合う。</p> <p>a－資格や免許が必要 調理師、医師、教師、電気工事士 等</p> <p>b－経験が必要 大工、鋳物師、左官工、骨董鑑定士 等</p> <p>c－高度な知識や判断力が必要 研究者、コンピュータ・プログラマー 等</p> <p>d－素質や才能が必要 野球選手、音楽家、陶芸家、画家 等</p> <p>3 職に就くことで生活の場がどうなるかを考え、次の①～④に分類し、それぞれの具体的な職業の例を出し合う。</p> <p>①－生まれ育った町や村 農林漁業の作業員、理容師、自営業主 等</p> <p>②－一人の集中した都市 弁護士、アナウンサー、税理士 等</p> <p>③－国内や県内を移動・転勤 国家公務員、警察官、トラック運転手 等</p> <p>④－世界各地を移動・転勤 パイロット、通訳、外交官、商社員 等</p>
終末 15分	<p>4 自分の希望する職業について、2番と3番の2つの視点から見直し、実現を図る上で努力すべきこと、克服すべきことをまとめる。</p> <p>6 職場体験学習を、どういった職場で行うべきか、前時と本時の活動を踏まえて考える。</p>

**主な指導と援助**

- 自由に発表させる。  
どんな方法で就職するか、就職後の生活の場がどこになるかについて考えることを、本時の活動テーマとして確認させる。
- 職業に就くに当たって必要な条件や方法について意見が出ないときは、具体的な職業の一例を示して考えさせたり、「中学生生活と進路」p.40を活用して把握させる。
- 具体的な職業の例については、マスメディアからの情報だけでなく身近な地域で働いている人びとも目を向けさせる。  
また、職業によっては、a～dの分類のうち複数に該当するものもあることを、生徒から出された具体的な例を基に補足する。
- 情報選択能力**に関する工夫  
→職業に就く方法の違いと具体的職業
- 就職に伴う生活の場の違いについては、将来どんなところに住んで仕事をしたいかを自由に発表させる中で、地元から県内市町村、他都道府県、世界各国まで多重の圏域が考えられることを理解させる。  
また、移動や転勤を伴うものと伴わないものがあることに気付かせる。
- 具体的な職業の例については、マスメディアからの情報だけでなく身近な地域で働いている人びとも目を向けさせる。
- 情報選択能力**に関する工夫  
→就職に伴う生活の場の違いと具体的職業
- 希望する職業に就くためには、場合によっては、自己の能力をもっと伸ばしたり、生活習慣や性格を改善したり、家族の理解を得たりしていかなければならないことに気付かせた上で、それらへの現時点での具体的な対応策を考えさせる。
- 思考能力**に関する工夫  
→今の自分に必要なこと
- 意志決定能力**に関する工夫  
→職場体験学習の学習先の吟味

**5 事後指導**

- ・職場体験学習の体験先として、できるだけ自分の希望する職業の適性や諸条件に近いものを選ばせる。
- ・職場体験学習が充実したものとなるように、体験時の心構えや聞き取り内容を吟味させる。

## 2年-25 題材名 「学ぶ制度の調査」

### 1 目標

- ア 中学校卒業後の学ぶ制度と機会について、学校制度の系統図を中心にして理解させる。
- イ 中学校卒業後の上級学校についての調査計画（方法、内容・視点、分担等）を立てさせる。

### 2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：自分の進路選択に基づいた勉学の機会を考える。
- イ **問題解決能力**：中学校卒業後の上級学校の調査計画を立てる。
- ウ **情報選択能力**：中学校卒業後の勉学の道を学校制度の系統図で理解する。

### 3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学校制度の系統図をみて、「中学校卒業後の学ぶ制度と機会」のワークシートを作成させる。
- イ 中学校卒業後の上級学校の調査計画を立案させる。

### 4 展開

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入 3分	1 中学校卒業後の上級学校について、知っているものを発表する。 中学校卒業後の学ぶ制度と機会について調べよう
展	2 板書された学校名がどのような観点で分類されているかを考えて発表する。 ・学校の種類 ・公立か私立か 等 3 板書された各学校が、就職までの過程でどのように位置付いているかを調べ、ワークシートに記入する。 (1) 「中学校卒業後の学ぶ制度と機会」のワークシートに、当てはまる教育機関名を記入しながら理解する。 (2) 現時点で自分が進もうと考えているコースを、ワークシート上でなぞってみる。
開 42分	4 中学校卒業後の各上級学校について調べる計画を立てる。 (1) どんなことを調べるか（知りたい事項は何か）を、班で話し合う。 ・フリートークンで出し合う ・出ないときは、資料を参照する (2) どのようにして調べるかを、班で話し合う。 ・4(1)と同様にして進める
終末 5分	5 どの班がどれを調べるか、分担を決める。 ・班の代表によるじゃんけんまたはくじ引き 6 次の活動と、準備物の確認をする。 ・分担にしたがって班毎に上級学校調査をする ・分担の上級学校に関する資料を集めてくる

#### 主な指導と援助

できるだけ多く発表させる。  
学校種（高校、高专、大学など）と設置主体（県、市、私）、課程（全日、定時、通信）などが分かるように板書を工夫する。  
生徒から出ないものについては、教師から紹介する。

分類毎の違いを簡単に補説し、その観点を板書して明示する。

「中学生生活と進路」p.53の図を基にしてワークシートを作成する。  
初めは自力で考えて学校名を記入し、分からないものについて「中学生生活と進路」p.53の図で調べて記入し、確認させる。

#### 情報選択能力に関する工夫

→「中学校卒業後の学ぶ制度と機会」（系統図）

今の自分の希望するコースを赤色でなぞらせる。

#### 思考能力に関する工夫

→自分の希望する進路のコースの記入

調べる上級学校は、高校、高专、専修（各種）学校、職業能力開発施設、働きながら学ぶ学校（定時制、通信制、事業所内の訓練施設）とする。  
調べる事項は、「中学生生活と進路」p.52を参考にし、①教育内容、②適性、③入学資格、④所在地、⑤修業年限、⑥費用、⑦その学校の卒業生の進路、⑧通学方法などとする。  
上記の内容に沿ったワークシートを用意しておく。

調べる方法・資料として、①各学校のパンフレットや案内書、②先輩の話、③体験入学の報告書、④県教委発行の学校一覧、⑤インターネット、⑥取材活動などを押さえておく。

#### 問題解決能力に関する工夫

→中学校卒業後の各上級学校の調査計画立案

最終的に、調査結果をみんなで共有することから、機械的に分担を決めさせることとする。

### 5 事後指導

- ・次時の調査に必要な資料を集めさせる。班内での分担（資料収集や次時のまとめ作業の分担など）もさせる。
- ・自分の進路の希望について家族と話し合い、家族の願いを把握させておく。

**2年-26 題材名 「中学校卒業後の学ぶ道」**

**1 目標**

- ア 将来の進学希望先に関する情報を学ばせ、その選択の視野を広めながら、生徒の進学希望をよりよく育てる。
- イ 高校、高専、専修（各種）学校、職業能力開発施設、働きながら学ぶ学校それぞれの、教育の目的、種類、学科や課程、内容や特色を調べさせる。

**2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力**

- ア **人間関係能力**：班の仲間と協力して調べる。
- イ **思考能力**：自分の進路希望と対比しながら調べる。
- ウ **情報選択能力**：高校や専門学校等の教育の目的と種類・学科・課程、奨学制度を理解する。

**3 指導上の工夫（留意点）**

- ア 中学校卒業後の勉学の機会、その後の勉学の機会と支援制度について、生徒自らに調査・研究をさせる。
- イ **班毎の調査活動**をさせる。
- ウ 前日までに、必要資料の準備ができているか確認する。

**4 展開**

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 前時の復習をし、本時は中学校卒業後の学ぶ道について調べていくことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">中学校卒業後の各種の学ぶ機関について調べ、報告書にまとめよう</div>
2 分	
展	2 班毎に分かれて調査し、まとめる。 (1) 高等学校 ア 普通科 イ 専門学科 ウ 総合学科 (2) 高等専門学校 (3) 専修学校・各種学校 (4) 職業能力開発施設 (5) 働きながら学ぶ学校 ア 定時制、通信制 イ 事業所内の職業訓練施設
開	
45 分	3 奨学制度について、先生から説明を聞く。 ・日本育英会 ・母子福祉資金 ・交通遺児育英資金 ・各市町村の育英資金 等
終 末	4 調査結果の発表の仕方とその準備について確認する。 ・いつまでに、誰が、何を、どのように準備するか ・発表時の役割分担をどうするか ・発表のスタイルはどうか
3 分	

主な指導と援助

関係資料がそろっているか、確認する。  
 本時は、前時に決めた分担にしたがって班毎に調査し、レポートにまとめていくことを確認する。  
 資料は、各班で用意したもの他、「中学生活と進路」も活用する。

班内の役割分担にしたがって調査し、まとめる。  
 まとめのレポートの様式は、前時に確認した調査事項を踏まえて、教師が用意する。

**思考能力** 及び **情報選択能力** に関する工夫  
 → **中学校卒業後の各種の学ぶ機関についての調査**

各班の協力体制に留意しながら巡回し、支援する。  
 調査結果の発表の仕方やその分担も考えながら作業を進めるように指示する。

**人間関係能力** に関する工夫  
 → **班体制での調査とまとめ、発表準備**

教師が関連資料を用意して説明する。  
 平成17年度から、日本育英会は廃止され、各都道府県が金額を決めて募集することになったことに留意する。  
 場合によっては、短学活等で説明する。

調査結果の発表（情報の共有化）の時間については、次のような工夫をする。  
 ①授業時間として確保できる場合は、その時間で発表会を行う。  
 ②授業時間として確保できない場合は、帰りの短学活等を利用し、各班毎に順番を決めて発表をする。

**5 事後指導**

- ・調査したことを、班毎に短学活等で発表し情報の共有化を図る。
- ・発表を終えた班のレポートは、進路コーナーに掲示したり、通信等で紹介する。
- ・全部の班の発表が終わったら、レポートを冊子にまとめて配付する。

## 2年-27 題材名 「自分の力を高める」

### 1 目標

- ア 上級学校調査で得られた情報を活用させ、高校卒業後の学ぶ機関や機会について理解させる。
- イ 「20歳の自分」をデザインさせ、目的意識をもたせて自分の進路計画を検討・吟味させる。

### 2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **問題解決能力** : 自分の進路計画を検討・吟味する。
- イ **意志決定能力** : 進路実現への意志を強くする。

### 3 指導上の工夫（留意点）

- ア 「20歳の自分」をデザインさせる。
- イ 各自の進路希望に基づいた勉学の機会を考えさせ、学習に意欲的に取り組む態度を養う。

### 4 展開

時間	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 自分の将来の希望を踏まえて、高校等を卒業した後どうなっているかを考える。 自分の将来の希望の実現を想定して、「20歳の自分」をデザインしてみよう
展開	2 高校等の卒業後の学ぶ機関を考え、発表する。 ・大学 ・短大 ・専門学校 等 3 大学、短大、専門学校ではどんなことを学ぶのか、どんな制度になっているか、資料から把握する。 ・県内の大学、短大、専門学校を例として取り上げる 4 「20歳の自分」をデザインする。 ・どこで何をしているか ・そこに至るまでにどんな道をたどったか ・その後、どんな道をたどる予定か
42分	5 自分を高めるために、他に学ぶ機会がないか考える。 ・生涯学習の機会があることを、実例を基に理解する
終末	6 「学ぶための制度と機会」を学んでの感想や自分の進路希望の実現に向けての決意を書く。 ・上級学校の様子が具体的に分かってきたので、進路の問題が現実味を帯びてきた 5 ・自分の進路希望を順序立てて考えていきたい 分 ・「20歳の自分」に書いたことを実現したい

#### 主な指導と援助

数人に発表させる。  
前回までの学習（調査）と各班の発表を基にして、自分の将来の希望実現のための進路計画（「20歳の自分」）を立てることを本時の活動として確認させる。

中学校卒業後に希望の上級学校で学んだ後、どんな進路を選ぶことができるか考えさせる。  
知っている大学や短大、専門学校等の名前を挙げさせ、興味関心や意識を高める。

資料としては、「中学生活と進路」p.67の「20歳、その時私は？」やpp.106-108をベースにして利用するが、その中の主な教育機関については、より詳しい資料を教師が用意して提示する。

25 「学ぶ制度の調査」で使用したワークシートを活用し、具体的な教育機関の名前等も書き加えさせる。  
また、「中学生活と進路」p.67の「20歳、その時私は？」を例にして、「20歳の自分」を文章化させる。

**問題解決能力** に関する工夫  
→ 「20歳の自分」のデザイン

地域の社会教育施設の講座や通信教育、習い事、海外留学、職場での研修等を想起させ、学ぼうとすればいくらかでも学習の機関や機会があることに気付かせる。  
生涯学習の精神は、自分で求めて学ぶことにあることを理解させる。

進路計画「20歳の自分」のワークシートに記入させる。  
時間があれば、数名に発表させる。

**意志決定能力** に関する工夫  
→ 自分の進路希望の実現に向けての決意

### 5 事後指導

- ・進路計画「20歳の自分」の資料は、個人資料として、個別の指導・相談に生かす。
- ・進路計画「20歳の自分」が完成しなかった場合は宿題とし、後日集めて指導する。

※ 「二学期の反省」の際に「今自分が悩んでいること」のアンケートを実施し、冬休み明け直後の学級活動（2年-31「冬休みの反省と新年の決意」）の指導に生かす。

アンケートの項目は、①学級、②学習、③進路、④友達、⑤性格、⑥身体、⑦家庭、⑧異性、⑨先生、⑩部活動、⑪その他 等とする。

## 2年-31 題材名 「冬休みの反省と新年の決意」

### 1 目標

- ア 冬休み中の生活と学習の目標を、冬休みの計画に基づいて振り返らせ、成果と課題を確認させる。
- イ 自己の急激な変化から生ずる不安や悩みへの対処法を考えさせ、充実した生き方をさせる。

### 2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：級友同士で、互いに理解し、敬愛し、励まし合う中で、自分を高める。
- イ **感情統制能力**：悩みや不安を積極的に解決しようと自覚する。
- ウ **思考能力**：今の自分の生活を客観的に振り返り、今後どのように生活を充実させるかを考える。

### 3 指導上の工夫（留意点）

- ア 冬休みの計画表を活用する。
- イ 冬休みの反省用紙を交換し合って、ピア・カウンセリングをする。
- ウ 二学期の反省の中で、「今自分が悩んでいること」のアンケート（27の下欄参照）を実施し、資料化しておく。

### 4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 冬休みを振り返っての思い出や感想を発表し、活動テーマを知る。 冬休みの成果と課題を確認し、心の不安や悩みを解消して、まとめの学期を歩み出そう
展開	2 冬休みの課題や提出物等を提出する。 ・通信票、保健票等 ・教科等の課題
	3 冬休みの反省の仕方について、先生から説明を聞く。 ・夏休み明け同様、ピア・カウンセリングの手法を用いることを知る
	4 冬休みの計画表を基にしながら、「冬休みの反省用紙」にしたがって各自で冬休みを振り返る。 ・成果や課題を記入する（クライアント）
	5 任意の級友の成果や課題に対するコメントを記入する。（カウンセラー）
	6 カウンセラーからの回答を読む。
	7 二学期末に実施した不安・悩みのアンケート結果を見て、傾向をつかむ。 ・どんな悩みが挙げられているか ・自分に共通する悩みはないか
	8 なぜ、7番のような不安・悩みが生じているのか、その原因と解決策を話し合う。 ・班毎に、ブレインストーミング法で行う
開	9 各自、感想と決意を書く。 ・今後、どのように生活を充実させるか
	10 先生からまとめの話を聞く。 ・中学生期は、心身の変化が大きくそれに伴って不安や悩みが生じるが心配はいらないこと ・誰もが抱える不安や悩みを乗り越えて、最高学年に向けて頑張ること

### 主な指導と援助

数名に発表させる。  
有意義な冬休みだったか、そうでなかったかを挙手させ、全体的な傾向を確認した上で、各自の冬休みについていくつかの観点から振り返り、任意の級友同士で互いに評価・激励し合うことと、中学生期の不安や悩みの解決策を考えることを、本時の活動テーマとする。

通信票や保健票等は、担任が提出状況を確認する。  
教科等の課題は、各教科係に、本時の活動終了後に提出状況を確認させる。

〈ピア・カウンセリング実施上の約束事〉  
・否定的なこと、人がいやがることは書かない  
・秘密は絶対に守る  
・カウンセラー（答えてくれた人）を探さない

冬休みの成果と課題を素直に記入させる。  
反省用紙を二つ折りにし、裏に自分だけが分かる印を付けさせる。  
反省用紙を集め、任意の級友に渡るように再配付させる。

真剣にアドバイスや励ましを考えさせる。  
落ち着いたBGMを流して雰囲気を作る方法もある。  
書き終わったら、二つ折りにして提出させる。  
自分のマークの反省用紙を間違えずに持っていかせる。

#### 人間関係能力 に関する工夫

→ピア・カウンセリング

OHPやパソコンのスライドにしたり、模造紙に書いたりして提示し、全体で一斉に確認できるようにする。

原因については、何となくいらつく、人からとやかく言われたくない、身体的なことが気になるようになったといったことが出されると考えられる。これらを共感的に受け止め、心の面での変化が生じていることに気付かせる。

#### 感情統制能力 に関する工夫

→不安・悩みについての話し合い（ブレインストーミング法）

#### 思考能力 に関する工夫

→不安の解消と今後の生活に向けての決意

本時の活動によっても不安や悩みが解消されない時や、新たな不安や悩みが生じた時は、積極的に相談するように話す。

### 5 事後指導

- ・冬休みを振り返ってのアンケートの集計や、各自の今後の決意を通信等で紹介する。
- ・アンケート集計をストックし、2・3年での長期休業明けにおける振り返り（比較）の資料とする。
- ・必要に応じて個別の相談を行う。

**2年-33 題材名 「自分の適性」**

**1 目標**

- ア 自己理解の一層の深化を図らせる。
- イ 適性の意味を理解させ、希望の職業を自分の適性の面から考えさせる。

**2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力**

- ア **思考能力**：自分の希望職業を適性の面から検討する。
- イ **意志決定能力**：自分の可能性を広げる決意をする。
- イ **情報選択能力**：④適性の意味を理解する。⑥いくつかの職業を例に、必要と思われる適性を選択肢から選ぶ。

**3 指導上の工夫（留意点）**

- ア 適性の意味を理解させ、自己理解深化の方法を把握させる。
- イ **いくつかの職業を例に、必要と思われる適性を選ぶワークシート**を用意する。

職場体験報告会等を行う場合は、体験した職業における適性を紹介する場面を入れさせる。

**4 展開**

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	<p>1 適性とはどのような意味かを予想して考え、発表する。</p> <p>適性の意味を知り、いくつかの職業を例に、それに合う適性を考えよう</p>
展開	<p>2 いくつかの職業を例に、それぞれの職業の特色と、必要と思われる適性について考え、話し合う。</p> <p>(1) 各自で考え、自分の考えをワークシートに記入する。</p> <p>(2) 班毎に検討する。</p>
展開	<p>3 自分の希望する職業の適性について考え、話し合う。</p> <p>(1) 自分の希望する職業の適性について考え、ワークシートに記入する。</p> <p>(2) ペアまたは班で話し合い、確認する。</p>
展開	<p>4 「中学生活と進路」p.71「適性を見つめ、可能性を広げよう」を読んで、感想を発表する。</p>
終末	<p>5 自分の希望する職業に就くために、今後努力していきたいことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>希望する職業に必要とされる適性をもっと深く調べてみる</li> <li>いろんなことに挑戦し自分の可能性を広げる</li> </ul>

**主な指導と援助**

自由に発表させる。  
ヒントとして、演劇の役割などでの「適役」ということばを基に考えさせる。  
「中学生活と進路」P.70で適性の意味を確認するとともに、活動テーマを確認させる。

**情報選択能力④に関する工夫**

→適性の意味の確認

ワークシートの例（一部）

職業の分類の観点	A 職業名	B 特に必要と思われる能力・人柄
人にサービスする		
人に奉仕、教える		
自然・生物が相手		
物や機械が相手		
事務をとる		
芸術関係、創造力		

〔A群 職業名〕

タレント 美容師 大工 会社の事務員 飼育員 保育士

※ 各観点毎に2、3種類の職業例を用意する。

〔B群 必要と思われる能力・人柄〕

物を作るのが好き 人前で演技をしたり歌うのが好き  
資料をうまく整理できる 植物や動物を世話するのが得意  
手先が器用 面倒見がいい 人と接することが好き

※ 各観点毎に2、3種類の能力・人柄例を用意する。また、1つの能力・人柄例が、複数の職業に関係する場合はあることに留意させる。

**情報選択能力⑥に関する工夫**

→いくつかの職業とその適性を考える

多面的、客観的に考えるようにさせる。  
机間指導で、適宜援助する。

**思考能力に関する工夫**

→自分の希望職業の適性からの検討

職業には適性があるが、絶対的なものではなく、自分の可能性を広げていくことで対応できることに気付かせる。

強い目的意識をもって努力を重ねることが大切であることを強調する。

**意志決定能力に関する工夫**

→各自の希望達成を目指した努力事項

**5 事後指導**

- ・ワークシートを集め、「今後努力していきたいこと」を通信等で紹介する。
- ・必要に応じて、個別指導（個人面談）を行う。
- ・進路適性検査を行う。

**2年-34 題材名 「適性を生かす進路を選ぼう」**

**1 目標**

- ア 自己理解を一層深化させるには、どんな観点や方法によったらよいかを理解させる。
- イ 友達の特性を意識して見つけていくことで、他者理解の雰囲気を作りつつ、自己理解の方法を理解させる。

**2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力**

- ア **問題解決能力**：④友達の特性を見つけることで、自己理解にもつなげる。⑥家族や友達の意見及び進路適性検査等を参考にして、自分の特色をまとめる。
- イ **意志決定能力**：自己の可能性を広げていく気持ちをもつ。
- ウ **情報選択能力**：自己理解の深化を図る観点や方法を理解する。

**3 指導上の工夫（留意点）**

- ア 適性の意味を理解させ、自己理解深化の方法を把握させる。
- イ 家族から、自分の個性についてと、進路についての考えを聞いてこさせる。
- ウ 適性検査を実施し、資料を得ておく。

**4 展開**

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 「高校生が進路について学びたかったこと」の資料を見て、自己理解の大切さを理解する。 自分の個性や適性をより深く知る観点や方法を理解し、自分をもっと知ろう
3分	
展開	2 自分を知る観点にはどんなものがあるかを考えて発表する。 ①行動や性格 ②学習への興味関心・成績 ③身体や運動能力 ④趣味・特技 ⑤仕事への興味関心 ⑥進路の希望 ⑦家族の希望や考え 等
44分	3 自分を知るための方法にはどんなものがあるかを考えて発表する。 ①自分自身での振り返り ②諸検査や実体験 ③周りの人（家族、友人、先生）の意見
44分	4 3番の中で出された「親しい人から聞く」方法として、「私からみたあなた」のテーマで友達についての特色を短冊に書き、意見交換する。
44分	5 4番で書いた短冊、家族から聞いてきた意見、適性検査の結果を見ながら、2番の7つの観点到に沿って自分の特色をできるだけ詳しくワークシートに記入する。
終末	6 自分を生かしていくためには、自己の可能性を広げていく気持ちをもつことが大切であることを理解する。
3分	・プラス思考で考える ・夢を実現しようとする強い願いをもつ

**主な指導と援助**

「中学生活と進路」p.73の「高校生が進路について学びたかったこと」の資料をOHPやパソコンのスライド等で大きく提示できるようにしておく。  
進路を考える上で必要な情報の中でも、自分を知ることの大切さを理解させ、本時のテーマを確認する。

1年生の時の「人と個性」の学習を想起させながら、自由に発表させる。  
意見が出にくい時は、「中学生活と進路」pp.74-75を参考にして振り返り、確認させる。

1年生の時の「人と個性」の学習を想起させながら、自由に発表させる。  
意見が出にくい時は、「中学生活と進路」p.73「自分を知るための方法の例」を参考にして振り返り、確認させる。  
また、同頁の「自分を知る検査の例」について補説する。

**情報選択能力** に関する工夫  
→自己理解を図る観点や方法

班の中で、互いに相手の特性を書き合う。記入した特性について、どんなことからそうしたことを感じているのか意見交換させる。くれぐれも誤解が生じないように留意させる。  
人間関係が不安な場合は、良いところだけを記入させる。

**問題解決能力④** に関する工夫  
→友達の特性を見つける活動

検査の結果は絶対的なものではないことに留意させる。  
できるだけ客観的に自分を見つめるように留意させる。  
時間内に記入できなかった場合は課題とする。

**問題解決能力⑥** に関する工夫  
→自分の特色をまとめる活動

「中学生活と進路」p.76「夢に勝る適性はない」を読んでの感想を発表させる。

**意志決定能力** に関する工夫  
→「夢に勝る適性はない」の読み物資料

**5 事後指導**

- ・ワークシートや適性検査の結果を持ち帰り、家族とも話し合うようにさせる。
- ・ワークシートや使用した資料などは、ポートフォリオとして整理し、3年生に引き継いで指導に生かす。

1 目標

- ア 希望実現のために進路計画を検討・修正し、自分にふさわしいものにしていく必要性を理解させる。
- イ 進路計画を吟味するための観点を理解させる。
- ウ 進路計画を積極的に検討し、自分にふさわしいものに修正させる。
- エ 進路計画の実現を目指して、意欲的に取り組む態度を身に付けさせる。

2 ガイダンスの機能(選択)にかかわる能力

- ア **思考能力** : 2年生の進路学習の成果を生かす。
- イ **問題解決能力** : 進路計画の検討・修正はどんな場合に必要か考える。
- ウ **意志決定能力** : ㊸進路計画を修正し、望ましい進路計画を立てる。㊹強い意志で実現への努力を決意する。

3 指導上の工夫(留意点)

- ア 自己理解の深化を踏まえ、進路計画の吟味や自己伸長への努力を促す。
- イ 1年生で作成した進路計画を見直させ、**新たな進路計画を立案**させる。

1時間目に数名の父母から進路計画にかかわる講話を聞き、2時間目に進路計画を検討・修正する方法も考えられる。

4 展開(1/2時)

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	1 前時で学習した自分の特色とのかかわりで、 <b>進路の希望がどうなってきたか、考え発表する。</b> 進路計画を検討するポイントを考え、 <b>新たな進路計画を立てよう</b>
展開 43分	2 どのような場合に進路計画を検討し、修正しなければならないかを班で話し合う。 (1) 班毎に話し合う。 (2) 各班で出された意見を発表する。 (3) 先生の、進路計画の検討・修正の経験談を聞く。
終末 2分	3 <b>進路計画の検討・修正をする上でのポイントを確認し、自分の進路計画を見直す。</b> 4 次時の活動についての説明を聞く。 ・これまでの進路の学習を踏まえて新しい進路計画をたてる

主な指導と援助

数名に発表させる。  
進路希望に変化が生じてきた例、変化が生じない例の双方を取り上げるようにする。  
進路計画の見直しをしていくことを本時の活動テーマとして確認させる。

これまでの進路の学習を振り返らせ、それらを踏まえて、様々な観点から総合的に考えさせる。  
進路の学習を進める中で、進路計画にかかわる様々な条件が変化してきていることに気付かせる。

**問題解決能力** に関する工夫  
→進路計画の検討・修正が必要な場合を考える  
「中学生活と進路」p.77「進路計画を立てるポイント」を基に、進路計画の検討・修正のポイントを確認させる。  
また、この「進路計画を立てるポイント」の内容を、1年生の33「進路計画の立て方」で触れた「進路選択の6つの段階」に沿った形に改編して、「進路計画の検討・修正チェックシート」を作成し、検討させる。

**思考能力** に関する工夫  
→進路計画の検討・修正のポイントに沿った見直し

4 展開(2/2時)

導入 2分	1 前時に学習した、進路計画の検討・修正のポイントを確認する。
展開 43分	2 これまでの進路の学習内容を踏まえて、 <b>自分の新しい進路計画を立てる。</b> ・進路選択の6つの段階を踏まえる ①将来の希望職業、②進路を決める目的、 ③自分の特色、④進路先の状況、 ⑤進路計画、⑥進路相談
終末 5分	3 <b>でき上がった進路計画を実現していくために、今後特に努力していくことと、実現への決意を書く。</b>

1年生の時の進路計画の資料、2年生でのこれまでの進路学習関係の資料を参照させる(進路学習ファイルの活用)。  
用意する進路計画の様式は、1年生の時の進路計画の様式に準じ、進路選択の6つの段階を踏まえて作成する。

**意志決定能力㊸** に関する工夫  
→新しい進路計画の作成

2年生での進路学習は最後であるので、本時のまとめと決意を3年生につなげていくように促す。

**意志決定能力㊹** に関する工夫  
→今後の努力事項と実現への決意の記入

5 事後指導

- ・「今後特に努力していくこと」と「実現への決意」を通信等で紹介する。
- ・作成した進路計画や関連資料は、ポートフォリオとして整理し、3年生に引き継いで指導に生かす。

**2年-37 題材名 「私の通知表」**

**1 目標**

- ア 2年生の1年間を振り返り、自らの成長点や今後の課題を明確にさせる。
- イ 各自のこの1年間の成果と課題について意見交換し、讃え合わせる。

**2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力**

- ア **人間関係能力** : この1年間の級友の努力を互いに認め合う。
- イ **感情統制能力** : 不本意だったことも、客観的に振り返る。
- ウ **思考能力** : 個人、学級、学校生活などのレベルで1年間を振り返り、3年生への課題を考える。

**3 指導上の工夫（留意点）**

- ア 個人の生活の反省、グループや学級、生徒会、部活動などの取り組みの反省を確実に行わせる。
- イ 年度当初に書いた「2年生になって」の作文を導入に活用する。
- ウ 「私の通知表」を作成させ、それを基に、**班内で話し合わせ**成果と課題を明確にさせる。

**4 展開**

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 「2年生になって」の作文を読んで、この一年を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     中学校2年生の1年間の生活と学習の反省をし、課題を明確にしよう                 </div>
展開	2 年度初めに設定した個人目標の観点からも振り返ってみる。
	3 「中学生活と進路」p.80の「私の通知表」を参考にして2年生での1年間を振り返り、「私の通知表」を作成する。 ア 目標の達成度                      イ 学習関係 ウ 生徒会・行事関係                エ 部活動関係 オ 係活動関係 カ 1年間の思い出ベスト3！ ①良かったこと      ②大変だったこと キ 努力したこと
開	4 班内の2、3人で「私の通知表」を見合っ、意見交換をする。 ・互いの努力の認め合いと思い出の共有
	5 2年生での学習の仕方について振り返る。 (1) 学習の仕方についてのチェック表で各自チェックする。 (2) 班内で、学級としての学習の仕方について話し合い、発表する。 (3) 学級としての学習上の改善点をまとめる。
40分	
終末	6 3年生に向けての課題をまとめ、ワークシートに記入させる。 ・生活や人間関係の面から ・学習の面から ・行事や諸活動の面から
7分	

**主な指導と援助**

2年生の1年間を反省するに当たり、年度当初に書いた決意作文を読ませることで、初心に返らせる。そして、新鮮な気持ち、挑戦心、向上心を喚起させながら反省を行い、3年生へ前向きな気持ちでつないでいくように促し、活動テーマを確認する。

「中学生活と進路」p.80の「私の通知表」に基づいてワークシートを作成し、記入させる。

できるだけ客観的な目で振り返るように指示し、不本意だったことも素直に振り返らせる。

**感情統制能力** に関する工夫  
 →客観的な目でこの1年間の自分を振り返る

まず、良い点を認め合い、次に課題点について話し合う。

**人間関係能力** に関する工夫  
 →班の中での意見交換・認め合い

「中学生活と進路」p.81の「学習の仕方を振り返る」を活用して振り返らせる。

学級としての学習の仕方を振り返る観点として、各学校で定めている「授業の約束」等を考える。一般的な観点としては、①授業での集中の状況、②授業への取り組みの積極性、③課題や道具の準備の状況、④支え合いや協力の状況、⑤家庭学習の取り組み状況、⑥定期テストの取り組み状況等が考えられる。

本時の活動で行った1年間の反省を踏まえて課題をまとめさせる。課題に前向きに取り組んでいく気持ちをもたせる。

**思考能力** に関する工夫  
 →反省を基に、3年生への課題を考える

**5 事後指導**

- ・「1年間の思い出ベスト3」や「努力したこと」を通信等で紹介する。

**2年-38 題材名 「最高学年への心構え」**

**1 目標**

- ア 3年生の自分をイメージさせ、最高学年生としての心構えをもたせる。
- イ 3年生への準備期間としての春休みを有意義なものにするための目標をもたせる。

この活動を三学期初めに実施し、そこでの決意を基に、三学期の成果と課題を最後にまとめる方法も考えられる。

**2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力**

- ア **思考能力**：「中学3年生」から連想することを考える。
- イ **問題解決能力**：最高学年生としての心構えを話し合っまとめる。
- ウ **意志決定能力**：最高学年生としての自分の心構え・抱負を固める。

**3 指導上の工夫（留意点）**

- ア 「中学3年生」ということばから連想するウェビングマップを作らせ、イメージをふくらませる。
- イ 最高学年生としての心構えを話し合わせる。

**4 展開**

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 「中学生生活と進路」p. 81「3年生はスタートが大切です」を読み、本時のテーマを確認する。 3年生での自分をイメージし、最高学年生になる上での心構えをもとう
展開	2 「中学3年生」ということばから連想することをウェビングマップにし、話し合う。 (1) 各自でウェビングマップを作成する。 (2) 班員それぞれのウェビングマップを見ながら、中学3年生の特色を話し合う。 3 最高学年生としての心構えについて話し合い、ワークシートに記入する。 (1) 班毎に、次の観点で話し合う。 ア 学習への取り組み姿勢 イ 生活面での姿勢 ウ 学年・学校行事への取り組み姿勢 エ 生徒会や部活動への取り組み姿勢 (2) 各班で話し合った内容を発表する。
開	(3) 全体で共通して留意していくべき心構えを確認する。
42分	4 3年生への準備期間としての春休みの過ごし方について考える。 (1) 各自の目標を設定する。 (2) 春休みの計画表を作成する。
終末	5 最高学年生になる上での各自の心構えや抱負をワークシートに記入する。 ・進路の実現に向けて、学習を充実させる ・自信と誇りをもった言動をとる ・下級生から敬愛される最高学年生を目指す

**主な指導と援助**

残された中学校での1年間を有意義なものにするために、今から3年生になるという自覚をもち、準備をしていくことの重要性を理解させて本時の活動テーマを確認させる。  
前時にまとめた「3年生に向けての課題」を振り返らせたり、3年生の先輩からのメッセージ（録音）を聞かせたりして意識を高めさせる方法も考えられる。

一つのことにこだわらずに、ゲーム感覚でどんどん記入するようにさせる。  
進路決定にかかわる大切な学年であることや、学校のリーダー（学校の顔）であることを共通に認識できたか確認する。

**思考能力** に関する工夫  
→「中学3年生」のウェビングマップ作り

2番(2)の活動で認識した「中学3年生」の姿と関連させて考えさせる。  
特に、アの観点については進路決定とのかかわりで、イ～エの観点については学校のリーダーとしての立場とのかかわりで考えさせる。

進路の実現に向けて各自が努力し、みんなで励まし合っ学習していくこと、下級生から敬愛される最高学年生を目指して自信と誇りをもった言動をとること等について確認させたい。

**問題解決能力** に関する工夫  
→最高学年生の心構えの話し合い

春休みの計画を立てる上でのポイントとして、「中学生生活と進路」p. 84を参考にさせる。  
計画表の作成は、時間内にできないと思われるので、目標や留意点（立案のポイント等）を確認し、残りは課題とする。

前時にまとめた「3年生に向けての課題」と、本時の班や学級での話し合いで確認したことを踏まえて、各自の3年生に向けての心構え・抱負を考えさせる。

**意志決定能力** に関する工夫  
→各自の3年生に向けての心構え・抱負

**5 事後指導**

- ・最高学年生としての心構えや抱負を、通信等で紹介したり、学年代表の学期末の挨拶に反映させたりする。
- ・作成した資料は、ポートフォリオとして整理し、3年生に引き継いで指導に生かす。
- ・春休みの計画の作成は、課題として取り組ませる。